

## 精密補綴治療を極める 技工サイドからの提言

歯科技工士  
青木デンタルラボラトリー  
青木啓高

補綴物には審美的、機能的条件が備えられていることが必須であるが、その根幹にあるのが精度の維持と考えている。

口腔内に最小限の調整量で、なるべく精度の高い補綴物を装着したいという要求については異論の余地はないと思われる。しかしながら今日のようにマイクロスコープの導入が普及して久しいにもかかわらず、どの程度の適合をもって良しとするかは、個人差が大きく明確な指標をもっている臨床家は意外と少ないのではないだろうか。また、装着時の咬合調整が想定したより多くなり、咬合器上で構成された咬合面形態が損なわれてしまう経験をしている歯科医師も多いものと思われる。口腔内で一定の精度を維持するためには歯科技工士だけの努力だけでは到底成し得ないもので、両者の目標基準の一致と綿密な連携が必要である。急速に進むデジタル化の時代だからこそ従来法で成し得たことの正しい理解の再認識が必要であろう。

そこで、今回は鑄造クラウンとジルコニアクラウンについて臨床上どの程度まで適合精度を求めることができるのかについての私どもの取り組みを示すと共に、口腔内において調整量の少ないクラウンを作製する為に必要な技工的配慮そしてドクターサイドに求められる配慮について考察してみたい。

### 【略歴】

- 1981年 日本大学法学部中退
- 1984年 沼津歯科技工専門学校卒業
- 1986年 国際デンタルアカデミーラボテックスクール卒業
- 1986年 国際デンタルアカデミー勤務
- 1988年 藤本歯科医院勤務
- 1991年 藤本研修会技工士コース講師
- 1993年 青木デンタルラボラトリー開設
- 現在 藤本研修会サポータースタッフ